

小金井市企業特集	7面
TAMA NEXTリーダー プログラム卒業生企業特集	8面
専門家「土業」特集	9面

「信頼される  
技術と誠意」理念に  
めつき加工を磨く



多摩の企業人  
『私の決断』  
Vol.46

ニシハラ理工株式会社  
代表取締役社長  
にしはらけいいち  
**西原敬一氏**

1952年小平市生まれ。大学卒業後、建築設計士として活躍し、1980年ニシハラ理工入社。94年3月に社長就任。2015年第13回多摩ブルー・グリーン賞「多摩ブルー賞優秀賞」「経済産業省関東経済産業局長賞」を受賞。  
武蔵村山市伊奈平 2-1-1 TEL:042-560-4011  
<http://www.nishihararikoh.co.jp>

**武蔵村山市に本社を置くニシハラ理工**

めつき加工メーカーだ。創業は1951年。「信頼される技術と誠意」を理念に各種伸銅品、ステンレス、アルミ、特殊鋼材などコイル状に巻かれた帯状の金属素材への連続めつき加工と、高品質なめつきの「量産技術」で高い評価を得ている。

めつきのノウハウ・技術に加え、加工・大量生産するための部品や生産装置、製造ラインの設計・製作、管理システムの構築、環境負荷物質などの分析・解析を自社で行ってきた。その結果、顧客のめつきに関するあらゆるニーズに応えるノウハウや技術が集積。プロセス・サポート・エンジニアリング」と名付けた、製造プロセスをトータルサポートできる体制が同社の最大の魅力であり強みだ。

多くのメーカーが相談に訪れ、時にはメーカーと共同で技術や製造装置の開発を行うこともある。

「めつき業界は素材の進歩、技術の進化、環境への対応、コストダウン、用途の拡大、製品の超小型化、海外生産、内製化と目まぐるしく状況が変化してきました。その対応に一つ一つ丁寧に応えてきた結果です」と西原社長は語る。

**ISO取得を機に品質方針を明確に**

2006年には、EUによる欧州域内への特定有害物質の使用制限規制「RoHS指令」が発効し、めつきに鉛が使えなくなった。それに合わせ、錫、銅、銅とビスマスの合金めつき、金、銀、ニッケルなど用途に合わせて次々と新しい素材仕様のめつき技術を開発した。追求する中で、添加物の独自配合で有機物の吸着を抑え、酸化防止効果があり、変色しないニシハラオリジナルの「Nishinめつき」も生まれた。

08年のリーマンショックでは、直後に売上2割の減が2カ月続き、2年間で売上が半減。クライアントのメーカー側も仕事がない状態で、その間にメーカーと組んでアルミめつきの技術を磨いた。アルミは銅ほど万能ではないが、コストが

安く、電気自動車やハイブリット車の軽量化や燃費向上に欠かせない技術。これからの需要拡大が期待される。15年には「アルミニウム製のフッ素系材への連続めつき加工技術」で多摩ブルー・グリーン賞「多摩ブルー賞優秀賞」と「経済産業省関東経済産業局長賞」を受賞した。

最近では、電線シールド材や自動車の電子制御を行うコンピュータECUなどで使われるカーボン繊維へのめつき技術を開発。自動車、医療、モバイル機器などへの拡大が期待されている。

同社は97年に品質管理のISO9002、02年には品質マネジメントシステムのISO9001、03年には環境マネジメントシステムのISO14001認証を取得した他、04年からはより効率的な生産設備の改善を目指すTQMにも取り組んできた。14年にはTAMA産業活性化協会の「環境配慮ものづくり大賞」を受賞。17年には日本プラントメンテナンス協会から「TPM優秀賞(カテコリーB)」も受賞した。

「これからはISOやTPMの取り組みを含め、IoTやAIなどの技術を使って生産性をより向上させることがテーマ。すでにチームを作って改善に向けたさまざまなプロジェクトを立ち上げています」と西原社長。

進歩と改善。この歩みを続ける限り、同社の進化はまだまだ続く。



武蔵村山市の本社・工場。埼玉県狭山市と佐賀県にも工場がある

連続めつきは、コイル状の材料にめつきを施す技術。ラインが50mに及ぶこともあり、高い管理技術が求められる

